

## 2020年NPT再検討会議第3回準備委員会広島市長メッセージ 米国・ニューヨーク市 2019年5月1日

広島市長として、各国代表の皆様へ、本委員会の議事を進めるに当たりまずお願いしたいのは、核兵器のない世界の実現に向けた被爆者の切なる願いを心に留めていただきたいということです。被爆者は、筆舌に尽くしがたい体験を経た「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という深い人道的信念から、核兵器の危険性について警鐘を鳴らし続けてきました。それ故に、彼らは2017年の核兵器禁止条約採択を心から歓迎しました。そして今、被爆者は条約の早期発効と核兵器廃絶に向けた具体的措置の進展を切に願っています。こうした中、グテーレス国連事務総長が発表された軍縮アジェンダは大きな後押しとなるものです。

一方で、中距離核戦力（INF）全廃条約を巡り米国とロシアが互いに破棄を表明するなど、不穏な動きが見られます。核抑止に依存する安全保障体制が続く中で、核保有国はNPT第6条に定められている核軍縮の誠実交渉義務を果たすどころか、核兵器の近代化を進めています。

平和首長会議の会長として、こうした危険な現状を打破すべく、皆様方が全力を尽くしてくださいをお願いいたします。私たちは、市民の安全と福祉を守る責任を担う自治体首長の組織として、被爆者の切実な願いを受け止め、「核兵器のない世界の実現」と「安全で活力のある都市の実現」の二つの目標を掲げて、世界恒久平和の実現に向けて活動しています。私たちは、異なる背景を持つ市民が、オーケストラが奏でるハーモニーのように互いを尊重し、協力し合い、誰もが安心して住める街をつくることに全力を注いでいます。こうした努力を無にし、壊滅的影響をもたらす核兵器の使用は、断固として認められません。

現下の核兵器を巡る国際情勢は、核兵器使用のリスクに晒されており、早急な対処が必要です。特に核保有国を代表する皆様へ今一度想起していただきたいのは、過去の核軍縮も、国際関係が緊迫する中で、指導者が勇気をもって互いに歩み寄ることで進展したということです。核兵器の開発競争を止め、創造的な解決策を探り、対決的安全保障を協調的安全保障に転換するイニシアティブを要請します。そうした共同の努力によって築かれた信頼関係が、軍縮の更なる進展をもたらします。私たち平和首長会議も、世界の多様なパートナーと共に、志を同じくする為政者のイニシアティブを全力で後押しします。また、過去の核軍縮の進展においても、幅広い市民社会の協調が重要な要素であったことを踏まえ、市民社会の相互理解・相互協力の強化に力を尽くしていく所存です。

NPT第6条の核軍縮の誠実交渉義務は、すべての締約国に課されているものです。私たちは、核兵器禁止条約も、第6条の義務の延長線上にあるものと捉えています。まずは、2020年のNPT再検討会議に向け、全ての国が違いを超えて真剣に対話し、具体的な核軍縮・不拡散措置を確実に進展させるための創造的な解決策を生み出してくださいを心から期待しています。